

# 東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	赤坂喜清教授送別の辞
別タイトル	Farewell Professor Yoshikiyo Akasaka
作成者（著者）	三上, 哲夫
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.5 5.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021_059
メタデータのURL	<a href="https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD27919433">https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD27919433</a>

# 赤坂喜清教授送別の辞

三上 哲夫

東邦大学医学部病理学講座

この度、赤坂喜清教授が定年退任するに当たり、病理学関連講座を代表して心からお祝いと感謝の意を申し上げます。

赤坂教授は1992年に病理学教室第二講座（現病理学講座）に入職され、教育やご自身の研究だけでなく、講座の庶務的な仕事を一人でこなし、さらに医療センター大森病院の病院病理部も兼任されてきました。その後准教授でいらっしやった時に研究代表者として文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業「慢性炎症性疾患の再生医学を応用した革新的予防法・治療法創成の拠点形成（平成23年度～平成27年度）」が採択され、東邦大学の他講座の先生方の研究を取りまとめられ、2012年に先端医科学研究センター組織修復・病態制御学研究室教授に就任されました。教授に就任されてからも引き続き病理学講座の兼任として学部生の病理学の教育、大学院教員としての教育、そして研究を行ってこられました。大森病院の形成外科、そして循環器内科の大学院生の学位論文も多数ご指導され、講座を盛り上げてくださいました。

赤坂先生は研究面では創傷治癒をテーマにしておられ、特にbFGF (basic fibroblast growth factor) による瘢痕線維化の抑制メカニズムを研究してこられました。私が着任した当時、赤坂先生は創傷部位で働いているmicroRNAの網羅的解析を行っていましたが、着実にコツコツと実験を重ねられ、miRNA146b-5pが創傷部に投与したbFGFにより高発現を示していること、そしてそのターゲットの一つがPDGFRαであって、血管増生の抑制を介して線維化を抑制していることを解明しました (J Invest Dermatol 2021)。動物実験や培養細胞を用いた実験により仮説を検証していく過程が講座内ミーティングで発表されることは、臨床検体による研究が主体である講座員にとっては、とて

も刺激になっておりました。対外的には、2015年に第45回日本創傷治癒学会会長を、その後、2020年には同学会理事長を務められました。

個人的な思い出になりますが、私が東邦大学に着任した当時、右も左もわからない中、赤坂先生には研究面、病理診断面で多くの御指南をいただきました。当時、前任地で執筆した論文がreviseとなっており、追加実験が必要な状況になっていました。急遽、病理学講座のラボでの実験系を構築しなくてはならず、遠心エバポレーター、PCRなどの機器について相談させていただき、講座内の機器や、総合研究部の機器が使えるということになり、必要な実験を組み、期日内に修正投稿を行うことができました。また、昨年付属医療センター大森病院での病理診断業務に携わる人員が手薄になった折も、赤坂先生にお願いすると二つ返事で早くご尽力下さいました。

病理学講座内ではコンピュータ関係に最も詳しく、講座内のLAN構築や機器の選定、Webカメラの設置など、いつもニコニコしながら整備してくださいました。COVID-19の流行後は、講座内のミーティングがzoomによる遠隔環境となりましたが、その折にも、機器の選定など大いに助けていただきました。

ご退任後は東邦大学の名誉教授としてこれからもご多忙な日々が続くと思いますが、お体には是非気を付けていただき、私たちの研究について外からご指導いただくとともに、今後の講座の成長を温かく見守っていただきたいと思っております。

最後になりますが、長きにわたってのご指導と講座へのご貢献に感謝申し上げますとともに、先生のご健康を講座員一同、心から祈念致しております。本当にありがとうございます。